

WAKA AYU

消化器内科の内視鏡診療

ご紹介のお願い

阿部 洋子

国立病院機構 宇都宮病院のある？ある！

杉山公美弥

美味しい病院給食を目指して

鈴木 知子



「消化器病センター」から「消化器内科」へ名称変更



美味しい病院給食を目指して奮闘中！

「消化器内科」の内視鏡診療



内科系診療部長 消化器内科医長 阿部 洋子

「消化器内科」へ名称が変わりました

2020年に開設された「消化器病センター」は、診療内容を明確にするため、2024年4月「より「消化器内科」へ診療科名を改めました。また、2024年4月に人事異動があり、獨協医科大学消化器内科より新たに阿部洋子部長および増山智史医師が着任し、計5名で診療にあたっています。新しく生まれ変わった「消化器内科」について、消化器内視鏡を中心にをご紹介します。

消化器内科スタッフ



増山智史 医師 井澤直哉 医師 鈴木優花 医師
阿部洋子 部長 菅谷洋子 医長



2023年4月に導入したEVIS X1。画質処理機能が向上し、スクリーニング検査から診断・治療までいずれのステップにおいても診療の質を上げることができます。

1. 上部消化管(胃)内視鏡

当院では内視鏡の操作性などの観点から、基本的に通常径(直径10mm程度)の内視鏡を口から挿入する経口内視鏡を行っています。咽頭反射の強い方、以前の検査で苦痛が強かった方などには、細い内視鏡(直径5mm程度)を用いて検査を行うこともできます。

1) 細い内視鏡による経鼻内視鏡検査

上部消化管内視鏡検査の一番の負担は、内視鏡が舌根に当たることで起こる咽頭反射です。経鼻内視鏡では、口から挿入する場合よりも内視鏡が舌根に当たりにくく咽頭反射が起こりにくいため、楽に検査が受けられます。検査前に鼻の中に鼻血を予防する薬を注入し、スプレー

による表面麻酔を行います。鼻の通りが良い方の鼻孔から内視鏡を挿入しますが、両方とも狭くて通らない場合には、その細い内視鏡を用いて口からの検査に変更します。

2) 細い内視鏡により経口でも負担は軽減

鼻腔に疾患がある方や生まれつき鼻腔が狭い方、内視鏡は通るものの痛みが強い場合などには経鼻で検査が行えないこともあります。細い内視鏡を用いることで、経口でも舌根への刺激が少なくなることで比較的楽に検査を受けることができます。



2. 下部消化管(大腸)内視鏡

1) 女性医師による大腸内視鏡検査

女性の患者さんで、女性医師による検査を希望される場合、検査予約の際にご相談下さい。できる限りご希望に添えるように配慮します。

2) 腸管洗浄剤(下剤)の負担、心配を軽減

大腸内視鏡では、検査前に腸管洗浄剤(下剤)を内服しなければなりません。自宅で内服し、腸を空にしてから来院して検査する病院もあります。この場合、病院に向かう途中のトイレの心配する声が多いです。この不安を解消するため、当院では朝から来院し、院内で腸管洗浄剤を内服していただきます。それでも不安がある場合は、2泊3日の入院による検査も行っています。どの方法をとるか、検査予約の際に担当医とご相談ください。

3. 鎮静剤を用いた内視鏡検査

内視鏡検査に不安がある場合、上部(胃)、下部(大腸)内視鏡ともに、鎮静剤を使って検査を行うことも可能です。検査前に鎮静剤を投与することで、ほんやりした状態で苦痛なく検査が行えます。検査後1時間はベッドで休み、ふらつきや気分不快がないことを確認してから帰宅となります。ただし、検査後は、ご自身でお車やバイク等の運転ができなくなりますので、公共交通機関の利用や送迎の手配をお願いします。鎮静による検査を希望する場合は、検査予約時に担当医にご相談ください。ただし、患者さんの状態によっては、鎮静剤を使用できない場合もあります。

4. 連携施設ダイレクト予約

上部消化管(胃)内視鏡は、外来受診なしで、連携医の先生からの電話で検査予約を直接取ることができます。患者さんは予約日時に来院し、検査を行います。予約は下記の地域連携室へお願いします。お気軽にご利用ください。

検査予約直通: 028-673-9132

5. 検査で異常があった場合

ポリープなど治療が必要な病変があった場合でも、安全性の理由から検査と同時に治療を行いません。改めて後日入院治療を計画します。内視鏡治療ではなく手術や化学療法が必要な場合は、外科と連携し速やかに治療を進めます。当院は、獨協医科大学の関連病院であり、必要があれば獨協医科大学で検査や治療、手術を行う場合もあります。

おわりに

通常の診療だけでなく、緊急内視鏡検査、悪性疾患の精査など地域が求める医療に迅速に対応しています。最新の内視鏡を追加導入し、内視鏡検査・治療枠も拡充しました。これにより、早期に内視鏡検査・治療予約ができる状態を維持しています。また、内視鏡以外にも、肝臓の分野ではB型肝炎やC型肝炎に対する抗ウイルス治療など消化器病疾患全般に対応しています。消化器疾患での診療が必要な患者さんは、是非、当院までご相談・ご紹介をお願いいたします。

国立病院機構(NHO)宇都宮病院の ある？ ある！



病院長 杉山 公美弥

古い歴史と新しい病院

当院は1929年(昭和4年)に創設された宇都宮市立療養所および栃木療養所を前身としています。5年後の2029年には、創立100周年を迎える歴史の古い病院です。創設から75年間は、傷痍軍人、結核、重症心身障害、神経難病の療養に特化した診療を行ってきました。全国の国立病院にとって、大きな転機は2004年の独立行政法人化です。独立採算を求められたことで、赤字病院の多くが存続、統合、廃院のいずれかを選択することになりました。



当時の上野嗣博院長は、急性期の機能を強化し、地域の中核病院を目指すことで「存続」を選択しました。その取り組みの一つとして、慈恵会医科大学整形外科から田中孝昭先生(現名誉院長)を当院へ招き、整形外科の強化を図りました。そして、群馬大学外科から増田典弘先生(現副院長)が加わり、急性期病院となるための体制作りに取り組みました。地域の要望に合わせて診療科も増やし、救急車も積極的に受け入れ、地域医療支援病院に指定されるまでになりました。地域医療を担って今年で20年になります。20年の歴史は、公的病院の中では極めて浅く、その意味では新しい病院と言えます。

NHOは経営にハンディキャップ？

NHOのイメージは、「赤字は税金で補填されるので、経営は悪くても大丈夫なんだろう」、逆に「国の財政は厳しいから設備は古いんだろう」など大きく違うようです。正解は、独立行政法人化により「赤字は税金で補填されません」。民間の医療グループと同様にNHO病院長会議では、各病院の収支が順位付けられて発表され、経営が重視されています。NHOならではの経営的に不利な点があります。それは、各病院には国立病院時代に累積された赤字の返済義務があり、独法化から20年経過した今も返済しています。最新の医療機器に更新しながら、国立時代の赤字も返済しているため、NHOの病院の多くが経営なハンディキャップを負っています。それでも当院は、沼尾利郎元院長、田中孝昭前院長および全職員の努力により、16年連続経常黒字を計上しています。しかし、最近の物価高が病院経営も直撃し、負債がハンディキャップとして重くのしかかっています。

NHOの医療機器は年代物？

医療機器購入は、当然ながら病院の自己資金から購入するのですが、NHO本部の承認が必要となります。購入承認には償還計画を作成する必要があり、購入後も償還計画通りか検証されます。しかし、昨年度から、黒字の病院では購入の自由度が増しました。私が着任した2020年以降に更新・導入した医療機器は以下の通りです。

- キャノン製80例CT(2021年)
- フィリップス製3テスラMRI(2022年)
- X線撮影装置(2024年導入予定)
- 消化器超音波内視鏡装置(2020年、2023年)
- 3D腹腔鏡装置(2024年導入予定)
- 呼吸器超音波内視鏡装置(2021年)
- 膀胱鏡(2022年)
- 腎・尿路結石用焼灼装置Litho EVO(2023年)

病院長への手紙とは？

地域に愛される病院を目指し「ホスピタリティ」を病院の基本方針の一つとしています。それを実践するため、外部から講師を招き定期的に接遇の研修を行っています。目線が職員と患者さんでは異なるため、死角にある部分を改善する目的で「病院長の手紙」を開始しました。以前から投書箱はありましたが、年に数件しか投書はありませんでした。しかし、「病院長が必ず読みます」と明記した「病院長の手紙」と題した投書箱へ変更したところ、毎月5通以上の投書が寄せられています。



嬉しいことに約4割が感謝の手紙で、過去の投書箱にはなかった現象です。一方、残りの約6割が苦情や提案であり、病院を改善するために大変重要な情報となっています。頂いた意見には可能な限り対応しています。氏名、住所が記載されていれば、対応状況を記した返事を書いています。

東京ドーム4.5個!広すぎる敷地!

当院には広い土地があり、病院は森に囲まれています。療養所の時代は、森の緑が多く多くの患者さんを癒したことと思います。北側の土地は県に順次売却し、1959年に岡本台病院、その後は岡本特別支援学校、保健環境センターが開設されました。



それでも東京ドーム4.5個分の敷地があり、この広すぎる土地が悩みの種です。3名の業務技術者が手入れを行っていますが、特に夏は雑草の成長が早く、猛暑で作業時間も十分に確保できないため整備が追いつきません。除草が行き届かないことで、患者さんからも苦情が多く寄せられています。現在、行政と土地の有効活用について話し合っています。

おわりに

この20年で、医療制度も経済も人の価値観も大きく変わりました。赤字だった療養所が黒字化を達成し、今まで生き残れたのは、地域の求める医療に合わせた病院を作れたためだと考えています。そして、時代は今も変化を続けています。ダーウィンの「種の起源」では、「生き残る種とは、最も強いものでも最も賢いものでもなく、最も変化に適應したものだ」と書かれています。地域医療を守るため、過去の成功に固執せず、常に時代の求める医療が提供できるよう柔軟性を持った病院運営を行っていきます。

病診連携、病病連携を含め、今後もよろしくお願いたします。

美味しい病院給食を目指して

栄養管理室長 鈴木 知子

健康回復と味の両立

病院食は、個々の患者さんの病状に適した、安全でバランスの良い食事を提供することにより、疾患の治癒をより早く、健康回復に貢献できることが期待されます。また、退院後の栄養教育の役割もあります。そして何より入院生活を少しでも快適に過ごせるように、毎日の食事は楽しみの一つだと考えています。そこで当院での工夫をいくつかご紹介したいと思います。

地産地消の取り組み

可能な限り地産地消に努めています。具体的には、

- 米は、栃木県産こしひかり
- 乳製品は、栃木県宇都宮市の老舗乳業社製
- 豆腐は、日光木綿豆腐
- パンは、宇都宮市の障害者施設

から購入しています。

また、栃木県の名産品であるかんぴょうを使った味噌汁、もろの煮つけやフライなど地域の皆さんになじみのある郷土料理を献立に入れています。



塩分制限をコクや出汁でカバー

食事制限のない常食であっても、病院給食の塩分は日本人の適正量である1日7.5gが推奨されているため、物足りないと感じる方も多いです。少ない(適正な)塩分量を調整するため、コクや出汁で補っています。毎朝の味噌汁は、うまみを強くするため合わせみそにしています。また、香辛料や香味野菜を使ったり、トマトや酢などの酸味の利用やゴマやピーナツなど香ばしい香りとコクをだすことで、塩分控えめでもおいしく食べられるよう工夫しています。

日々の改善と飽きない工夫

飽きない献立作りのため、管理栄養士と調理師で意見を出し合い新メニューの開発を行っています。和食だけでなく、洋食や中華、キノコのワイン蒸しなどのイタリアンまでバラエティに富んだ献立の提供を心がけています。病院にいながら季節を感じていただけるよう行事食を提供しています。今の時期、七夕はそうめん汁や星形デザート、土用の丑の日には心ばかりとなりますがうざく(きゅうりとうなぎの酢の物)を小鉢で提供する予定です。

また、定期的に病院給食に関するアンケートを行い、ごはんの硬さや、おいしかった食事、病院食で食べたいものなど、患者さんのご意見を献立に反映させています。カレーや手作りハンバーグなど、評判の良い献立は登場回数を増やしています。カレーうどんなども副菜に酢の物や胡麻和えを添え組み合わせを調整して提供しています。



病院長から一言



病院給食は、治療の一つでもあり、入院生活の数少ない楽しみの一つでもあるため、着任後から力を入れてきました。私も定期的に検食として食べていますが、毎回一歩ずつ良くなっています。物価

高騰を工夫により乗り越え、更に美味しい病院給食が提供できるように、病院全体で頑張っていきます。(病院長 杉山公美弥)

～連携室だより～

【連携医のご紹介】

医療法人 弥生会 山口クリニック

●院長● ^{やまぐち}山口 ^{たづこ}多鶴子 ●診療科● 内科 在宅訪問診療
 ●住所など● 住所：宇都宮市元今泉 6-2-9
 電話：028-613-2228
 ホームページ：http://www.yamaguchi-cl.jp/index.html

●院長紹介●

高齢者が多く入院している医療機関に勤務していた頃、在宅医の必要性を痛切に感じ、H13年3月に在宅医療を主体としたクリニックを開院し、長きに渡り在宅訪問診療を行っております。

高齢者の場合独居であったり、老々介護や認知介護を行っていたり、施設に入居されていたりと、患者様は個々に自身を取り巻く環境が異なりますが、長年在宅医療に携わって参りました経験を基に各々のニーズに対応し、患者様やご家族様が希望される在宅療養を支援して参りたいと考えております。

高齢者に限らず、神経筋疾患などの難病や終末期を自宅を迎えたいと願う癌患者様などの訪問も行っておりますので、お気軽にご相談ください。



●院長紹介●

2005年5月に移転した山口クリニックでは、完全バリアフリー構造を実現。どなたでも安心してご来院いただくことが可能です。また、クリニック内は全体にやさしい雰囲気になっており、落ち着いて診療を受けていただくことが可能です。

●周辺地図●



●診療時間●

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～10:00		●	●	●	●			
10:00～12:00	在宅訪問診療							
14:00～16:00	在宅訪問診療							
16:30～18:00	○	○	○	○	×			
備考	●要予約 ○予約不要							



外来診療担当医表

(令和6年7月1日～)

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
糖尿病・内分泌内科	午前	佐藤 稔	菊池 朋子	田中 精一	佐藤 稔	西田 舞
	午後					森(最終金曜日)
脳神経内科	午前	作田 英樹			渡邊 悠児	
	午後	作田 英樹				
神経難病外来(予約制)	午後			作田 英樹		
頭痛外来(予約制)	午後		渡邊 悠児			
消化器内科	午前	増山 智史	菅谷 洋子	山浦 正道	井澤 直哉	阿部 洋子
	午後	鈴木 優花	菅谷 洋子		菅谷 洋子	
呼吸器・アレルギー内科	午前	野村 由至 杉山公美弥 坂本 典孝	梅津貴史(第1・3・5週) 勝部 乙大	勝部 乙大 後藤 優斗	後藤 優斗 坂本 典孝	野村 由至 池田 直哉
	午後	杉山公美弥				沼尾利郎(第2・3週) 池田 直哉
禁煙外来(保険適用)	(午後予約制)	杉山公美弥				沼尾利郎(第2・3週)
リウマチ膠原病内科	午前	杉山公美弥		小池 涼太		
	午後	杉山公美弥		小池 涼太		杉山公美弥(第1・3週)
総合診療科	午前				南 建輔 迫 恭子	
小児科	午後		影山さち子 [予約制]	迫 恭子 [予約制]	[予約制] 子供療育相談ルーム [予約制](第2・4週)	
	午前	増田 典弘 滝田 純子	小川 敦 関悠佑(第1・3・5週) 山崎健人(第2・4週)	滝田 純子 小川 敦	増田 典弘 滝田 純子	小川 敦 増田 典弘
外科	午後		山口 悟 (大腸肛門)			中島 政信 (食道) 中島 崇裕
	午前					
呼吸器外科	午前					
乳腺外科	午後	伊藤淳(第1・3・5週)				
整形外科	1 診	田中 孝昭 (関節外科)	茶藪 昌明 (脊椎) (予約のみ)	熊谷吉夫(第1・5週) 田中孝昭(第2・3・4週) (関節外科)	茶藪昌明(第1・2・3・5週) (脊椎) (初診は紹介患者のみ)	熊谷 吉夫 (関節外科)
	2 診	泉原 亮友 (整形一般)	白石 綾子 (整形一般)	栗原健太郎(第1・4週) 松村郁杜(第2・5週) (整形一般) 熊谷吉夫(第3週) (関節外科)	澤田尚武(第1・3・5週) 石川義久(第2・4週) (整形一般)	澤田 尚武 (整形一般)
リウマチ科 (整形外科1診)				熊谷吉夫(第1・5週) 田中孝昭(第2・3・4週)		
リハビリテーション科				茶藪 昌明	茶藪 昌明	熊谷 吉夫 熊谷 吉夫
装具外来		田中 孝昭				
側弯症外来	午前				茶藪昌明(第4週) (側弯)(初診は紹介患者のみ)	
泌尿器科	午前	西原 大策	西原 大策	木島 敏樹	西原 大策	
	午後			木島 敏樹		大久保尚弥
障害者歯科						石川 博之

外来受診案内

- 初診及び予約のない方の外来診療受付時間は、8:30～11:00 迄です。緊急で来院される場合は、電話でお問い合わせ下さい。
- 地域医療連携室 TEL 028-673-2374(直通) FAX 028-673-1961(直通)
担当(ソーシャルワーカー)：伊澤・畑野・吉田・市村・福富・佐藤・永山(内線 133)

- 下記は入院患者さんを中心として診療しております。

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
循環器内科	午前		伊藤 致	田所 寿剛	渡邊 諒	先川はるか
	午後	古藪 陽太	伊藤 致	田所 寿剛		
歯科	午前	渡邊 裕子	石川 博之	渡邊 裕子	石川 博之	渡邊 裕子
	午後	石川 博之	渡邊 裕子	石川 博之	渡邊 裕子	
眼科	午後					松原 忠之
皮膚科	午後			山路 梨公		
耳鼻咽喉科	午後	永島 祐美				

- 休診は土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)です。
- 都合により臨時休診になる診療科もありますので、ご確認のうえ、ご来院ください。



独立行政法人(NHO)
病院 宇都宮病院
機構

〒329-1193 栃木県宇都宮市下岡本町2160

TEL 028-673-2111 FAX 028-673-6148

https://utsunomiya.hosp.go.jp